

平成20年度の 事業評価概要

平成21年3月16日

評価対象事業

新規事業採択時評価

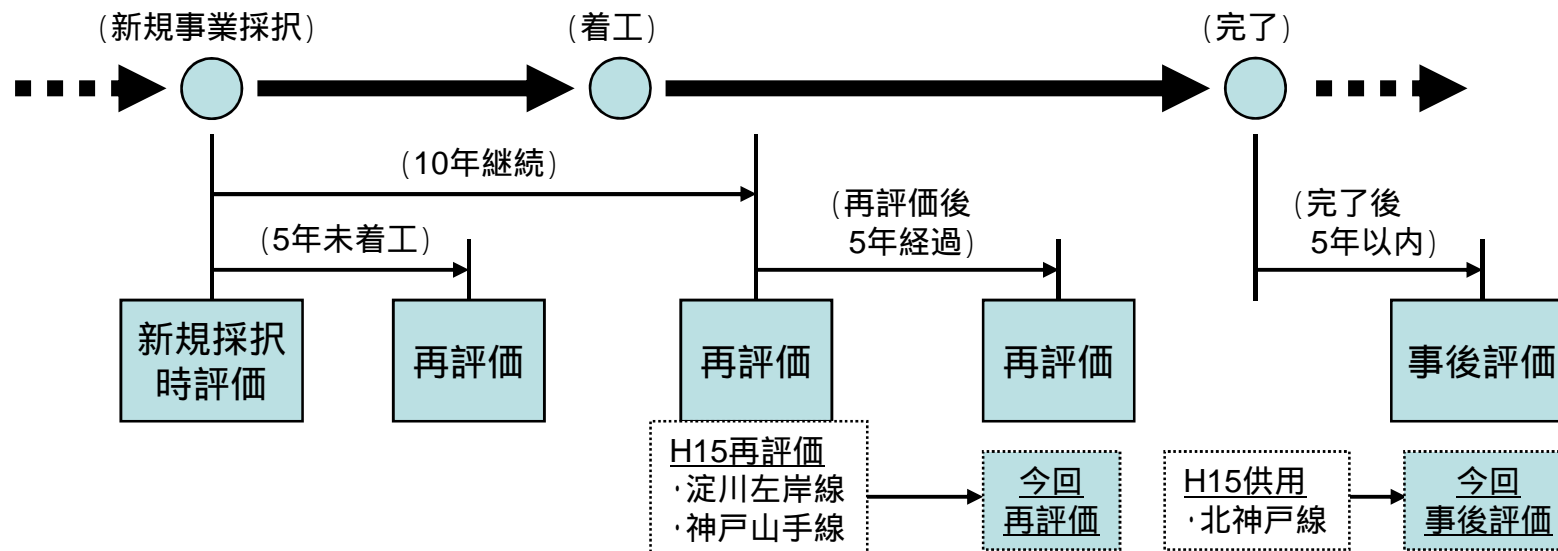
対象路線：なし

事業再評価

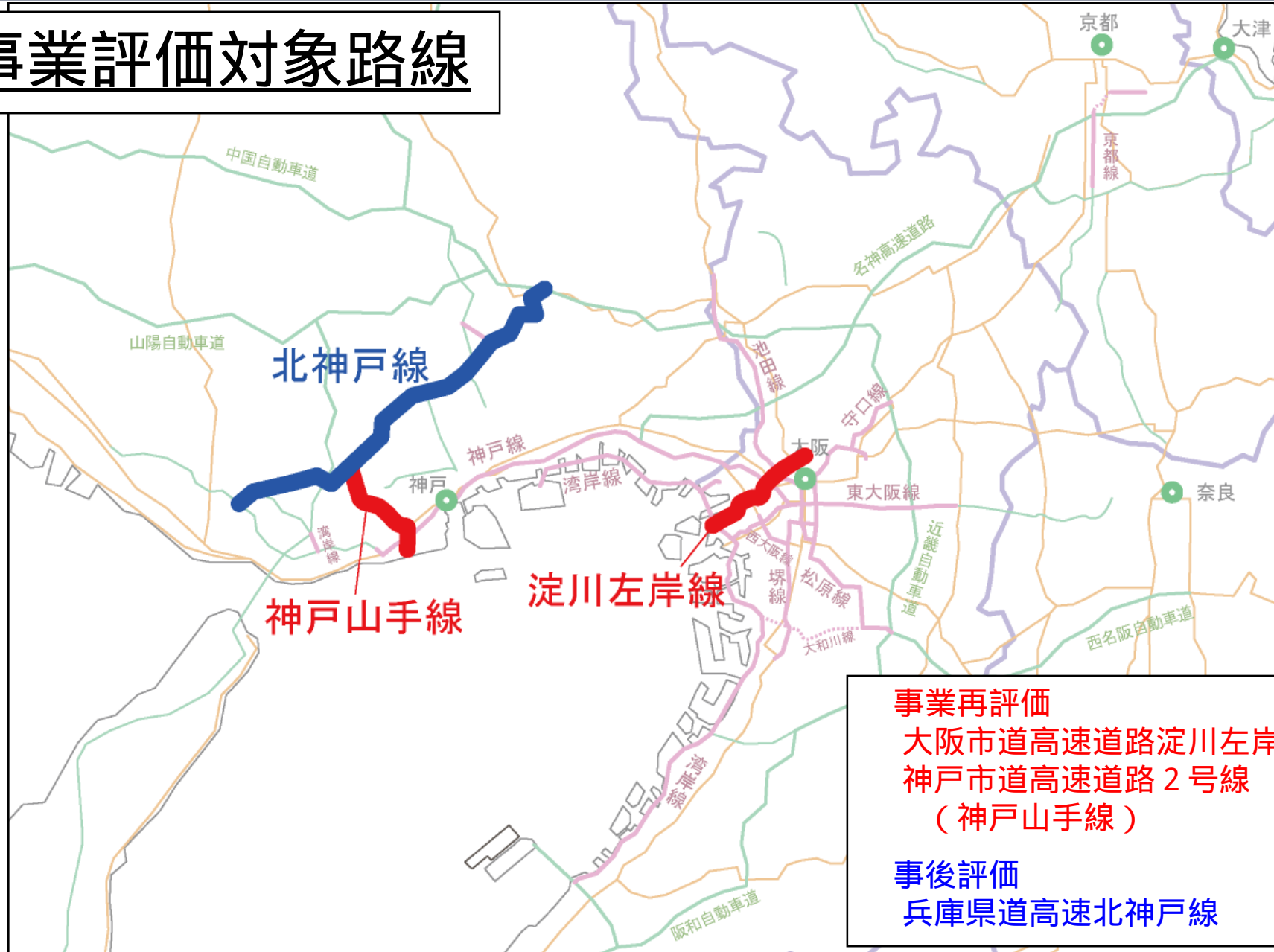
対象路線：大阪市道高速道路淀川左岸線
神戸市道高速道路2号線（神戸山手線）

事後評価

対象路線：兵庫県道高速北神戸線



事業評価対象路線



事業再評価
大阪市道高速道路淀川左岸線
神戸市道高速道路2号線
(神戸山手線)

事後評価
兵庫県道高速北神戸線

審議の視点

【事業再評価】

再評価の視点

1. 事業の必要性等
事業を巡る社会経済情勢等の変化
事業の投資効果(費用対効果分析)
事業の進捗状況
2. 事業の進捗の見込み
3. コスト縮減や代替案立案等の可能性

【事後評価】

事後評価の視点

1. 費用対効果分析の算定基礎となった要因
2. 事業の効果の発現状況
3. 事業実施による環境の変化
4. 社会経済情勢の変化
5. 今後の完了後の事後評価の必要性
6. 改善措置の必要性
7. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

出典:「道路事業・街路事業に係る再評価実施要領」
「道路事業・街路事業に係る事後評価実施要領」

事業評価に関する動向

- ・ 事業評価に用いる「費用便益分析マニュアル」がH20.11に改定
- ・ 平成17年度道路交通センサスに基づき、将来交通量の見直し

費用便益分析マニュアル(H20.11改定)

(主な変更点)

- ・ 走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故短縮便益について
原単位を見直し

例えば時間価値原単位(乗用車)は、
62.86円 40.10円/分・台 (36%)

- ・ 検討年数の見直し
評価対象期間を40年から50年に変更

車種別の時間価値原単位(円/分・台)

車種	時間価値原単位	
	前回	今回
乗用車	62.86	40.10
バス	519.74	374.27
小型貨物車	56.81	47.91
普通貨物車	87.44	64.18

将来交通量の見直し

- ・ 「将来交通需要推計に関する検討会」での検討を踏まえた国土交通省推計値
H42: 7490億台キロ/年(基本ケース(低位ケース))
(前回推計値比 13.1%(前回推計値8620億台キロ))
「社会資本整備審議会 道路部会 第26回基本政策部会」(H20.11.26) 資料より